

平成 26 年度第 1 回リニモ沿線地域づくり会議 会議概要

(文責：事務局)

日 時：平成 26 年 8 月 26 日（火）午後 2 時～午後 4 時

場 所：愛・地球博記念公園 地球市民交流センター 体験学習室 1

出席者：委員 10 名、オブザーバー 3 名、事務局 17 名

(開会)

1 あいさつ

○愛知県地域振興部次長

リニモ沿線地域では、沿線市による土地区画整理事業が順調に進んでいる。また、イオン、イケアについても、出店に向けた準備が始まっている。

県においても、来年の秋に愛・地球博記念公園において「全国都市緑化あいちフェア」を実施する予定で、現在、野外音楽ステージの工事を進めている。イベントには 70 万人程度の入場者を見込んでおり、周辺の交通渋滞対策のためにも、リニモを活用して来場していただくための方法を検討している。

本日は偶然隣で、交通対策課の実施している事業で、淑徳大学の学生さんたちが先生になって、いろいろな体験をしていただくイベントを行っており、沢山の親子に参加していただいている。

また、県と、瀬戸市、豊田市、日進市、長久手市の沿線 4 市で組織するリニモ沿線地域づくり調査研究会の事業として、リニモ沿線の大学、NPO が行う地域づくり活動の支援に着手したところである。

このような沿線活性化のための活動は、平成 21 年度に策定したリニモ沿線地域づくり構想の基本方針に基づいて実施しているが、この構想は平成 27 年が取組の目標年次であるため、平成 28 年以降の取組について検討を始めている。

リニモ沿線地域は名古屋市に隣接している利便性の高い地域であり、自然も豊かである。しかし、大型商業施設の立地に伴う生活道路への影響や、大学の都心回帰など、課題もある。地域のポテンシャルを活かしてさらに発展を進めていくため、地域住民、沿線大学などの皆様のご協力の下、しっかりと取組を進めていきたい。

本日の会議では地域づくりの現状について報告をし、構想の今後の取組について皆様からいろんなご意見を賜りたい。

2 議題

(1) リニモ沿線の地域づくりに向けた取組について

○事務局から資料 1～7 の説明。

○愛知高速交通の取組について説明。

○愛知高速交通の取組について説明。

ICカードシステムの導入についてだが、そもそもICカードがリニモに必要な理由は、大きく四つある。

一つ目に、平成25年3月に全国10種のICカードの相互利用が始まり、鉄道でICカードが使えることが標準となっていることである。

二つ目に、リニモ利用者には名古屋市内に乗り継ぎする人が多く、多くのお客様の利便性向上が図れること。

三つ目に、長久手市や日進市がコミュニティバスを運行し、すでにICカードが使える。バスからリニモへの乗り換えが便利だと、住民サービスの向上にもなる。

最後に、現在は自動券売機が2台しかなく、イオン、イケアが出店し、一日に何千人という利用客が訪れると、駅務がパンクしてしまうという可能性がある。

また、なぜ今なのかというと、リニモは来年の3月に10周年となり、駅務機器の更新のタイミングと同じである。このタイミングで、IC対応機器を入れたら、途中で入れるより安くできる。

また、ICに対する国庫補助制度ができたことにより、国庫補助を活用しながら経理上負担が少ない形で入れられるような現状にあり、今は愛知県と協力しながら補助金を取れるように動いているところである。

導入の目標時期は、具体的には28年度の初頭くらいまでとしている。

お金の工面をどうするのか、具体的にハードをどのようなものを選んでいくのか等、課題は山積だが、タイミングを逸しないよう努力したい。

通学の利用者が減っているということについてだが、その一方で、3万ちょっとでリニモを貸しきることのできる、貸切りニモというものを販売しており、こちらが好調である。年間150本くらい販売をしており、ほとんどは旅行会社がツアーのために買っているが、今年は予約もすでにかなり入っている。予約先も、ほとんど県外からで、ツアーのひとつとして購入されている。日本で唯一の磁気浮上式のリニアモーターカーということもあり、産業観光的な面ももう少し打って出たいと考えている。機会があれば、皆様にもこういうことをリニモでやっていると案内してほしい。

【委員・事務局発言要旨】

○瀬口委員長

今までのことについて、ご意見、ご質問があれば発言願いたい。

○島田委員

一つ目に、渋滞対策について提案させてほしい。自動車の渋滞をハードで解決することはなかなか難しく、駐車料金で需要をコントロールするという方法が考えられる。

リニモを使う場合と、マイカーを使う場合ではモリコロパークに来るのにいくらくらい違うのか調査したことがあるが、公共交通を使うほうがはるかに高い。そのひとつの要因が、公園の駐車場の料金が500円と、とても安いことにある。ひとつの渋滞対策として、公園の駐車場料金を見直せないだろうか。

ただ、単純に値上げするというと、反発も多いだろうから、リニモの利用促進費のようなものを駐車場料金に上乗せし、それを以って需要をコントロールし、リニモの利用促進の財源も確保するという策をお願いしていくことが考えられないだろうか。

二つ目に、沿線の整備、開発について少し気になることがある。この会議の資料に出て来ない民間開発事業者による開発も進んでいるかと思うが、情報が公開されていても、注意して見ていないと気が付かない。そして、随分話が進んでから、開発や工事を行っていることに気づくという現状がある。立派な構想があるのだが、そこには民間事業者の取り組んでいる開発が出てこない。長久手市の資料の構想図の中では、自然の保全地区となっているところが開発されることになっている。それはきちんとした手続きや設計の下で施行されるわけであり、悪いことではないが、平成28年度以降、この構想に引き続き取り組むにあたり、計画の整合性として問題があるのではないだろうか。

○愛知県地域政策課

県や市で把握している事業については、今後は会議の時に情報提供できればと考えている。

○井沢委員

平成28年度からICカードを導入されるということだが、東京ではSUICAで周辺施設の支払いができるなど、利便性が高くなっている。リニモでも、沿線の店舗や施設でICカードが使えるようになると良い。難しい問題もあるとは思いますが、まだ時間があるので、検討してもらいたい。

イケアが来年出店するということだが、ほとんどが車で来店し、リニモの利用活性化にどうつながるかは疑問である。

○瀬口委員長

リニモ沿線の大学の食堂やコンビニではmanacaを使えるのではないか。

○河合委員

県立大学には、そもそもコンビニはなく、生協はあるが、まだ使えない。生協に導入するとなると、タイミングが難しい。

○瀬口委員長

貸し切りリニモについては、今は利用価値があるが、リニア新幹線ができるとまた事情が変わる可能性があり、永続的でないかもしれない。だからこそ、この10年間のICカードの普及は大きい。大学でもICカードの導入を検討する時期に来ているのかもしれない。

○土居委員

イケアの話だが、確かにイケアを利用される方は大きな荷物を持って帰る人がほとんどだろうし、おそらく車の利用も多いという気がする。イケアもイオンモールも、かなりの交通渋滞が予想されるため、何か対策を今から考えるべきだと思う。

これからますます土地区画整理が整って住宅が建設されていくと、また自家用車の利用等、いろんな生活環境に車が伴い、渋滞が今の何倍にもなると思うので、町の活性化のためにもスムーズな行動ができることを考えていくと良いと思う。

また、リニモ利用者を増やして、愛知高速交通の経営改善と、地域の活性化を図るということについて、リニモにもう一工夫すると良いと思う。例えば今、大井川鉄道ではトーマスの顔を付けるという取組をしており、予約が殺到している。リニモももっと鉄道ファンに対するPRや、さらに子どもが乗りたいと思えるような仕掛けを作るなど、少し今とは違った取組を試してみたらどうか。

○前田委員

少子高齢化が進む中、高齢者は今後利用者の大きな母体になってくる可能性があるが、リニモの方でも何か考えているのか、また高齢者利用者数の昨年と今年の比較で、増加しているかどうか分からないのか。

○愛知高速交通(株)

高齢者の調査をしているわけではないため、実態についてはつかめてない。

ただ、自分が高齢になった場合に、駅までのアクセスがリニモを利用するか否かの大きなポイントになると思う。沿線市にも力添えをいただき、駅まで出やすい形にしたい。

4月から、長久手古戦場駅から愛知医科大学まで、無料で学生向けのシャトルバスを出していただいている。通院の方も当然利用しており、例えば沿線の高齢者の方がリニモで長久手古戦場まで来ていただけたら、後は無料で愛知医科大学のほうまで通院できるので、こういった取組も今後広めていくと良いのではないだろうか。

○瀬口委員長

長久手市、日進市には、コミュニティバスの利用についても乗り継ぎがよくなるよう工夫していただいている。コミュニティバスや大学のシャトルバスの時刻表は駅に置いてあるのか。

○愛知高速交通(株)

基本的にバスターミナルまで行けば分かるが、まだ不十分な点があるかもしれないため、連携を進めていきたいと思う。

○瀬口委員長

乗り継ぎがスムーズに行くためには、工夫が必要かも知れない。名鉄バスではカードが使えるので、リニモがICカード対応になれば乗り継ぎが楽にできるようになるだろう。

○清水委員

先ほど淑徳大学の学生や、県立大学の学生がいろいろな活動をしているという話をしていたが、過去に学生たちの発表を聞く中で、活動の拠点がなかなかなくて困っていると聞いた。

現在は各大学の持ち回りの形で活動しており、古戦場駅のリノモテラスには、学生の活動の拠点として期待をしている。しかし、先ほどの民間事業者の開発の話のように、今どのような形で進んでいるのか知らないうちに計画が進み、使う側の意見があまり反映されない施設になってしまうことが心配である。

また、イケアやイオンといった大型の施設は、今までは渋滞を引き起こすなど、地域と切り離された迷惑施設のように扱われてきたところもあり、もう少し地域貢献の形で企業と地域が関われないだろうか。徳重駅ではアピタと自治体が共同で駅とのアクセス部分に公共施設を置いているなどしているが、そういった点についてはどういった現状なのか。

○長久手市

古戦場駅前には、学生も含めた交流施設ということで、リノモテラス構想というものを進めており、駅前広場の公園については着々と準備されている。

その中で公共、公益施設のような交流拠点の部分もリノモテラス構想のソフト部分として考えている。これについては、近隣住民や市外の大学も含めた近隣大学の皆様と話し合いをしていきたいと思っている。

イオンモールについては、市とも開発の協議の段階で、まだ具体的に詳細を申し上げる状態ではない。

○瀬口委員長

協力していこうという姿勢が大切だと思う。ぜひご意見を戦わせて、いいものにし、成功させてほしい。

○松宮委員

沿線大学ということで、長久手市でリノモテラス等について意見交換等を行う場合、長久手市内だけでなく、周辺市の大学生も集まるといい。県立大学でも、淑徳大学と共同で見守りサポーターネットワークの初級の講座を一年生くらいに受けさせることを来年度計画している。それを各大学でやるのではなくて、長久手市内や、リノモテラスのようにいろんな大学の学生が集まれるような場で行えるようにしてほしい。

ボランティアの交流だけでなく授業や研究交流もできるスペースになると、沿線大学の交流にもなり、学生が地域に出て行くきっかけになると思う。

(2) リノモ沿線地域づくり構想の今後の取組の検討について（意見交換）

○事務局から意見交換参考資料の説明

【委員・事務局発言要旨】

○瀬口委員長

参考資料を見ると、ソフト事業は、大半が実施されているけれども一部が未実施となっている。

大型店の立地については、当構想がスタートした時点では、あまり具体化しておらず、その後環境に大きな変化があった。

また、大学の学部の一部が、外に出ていったということも大きな変化だと思う。リニア中央新幹線が出来つつあることや、少子化の進展により、大学の数がこの10年間で相当増えているのだと思う。この沿線は、大学の多い地域であるということを見据えて地域づくりを進めていかなければならないと思う。

それから、長久手南部の区画整理はかなり宅地化が進み、長久手市では定住者が増えている。そのため、まだしばらくは人口が増えていき、変化として人口の増加というのが、見込まれるという状況になっている。

○島田委員

委員長の発言に関係するが、この数年間の取組の評価をどうするのかということが大事だと思う。

これまで、とても素晴らしいことをやってきたと個人的には思っているが、これまでの評価に基づき次の計画に移行するのだと思う。

インプットとしてどういう事業をやったか、アウトプットとして、どういうふうに区画整理や開発をしたか、イベントをやったとかいう、インプット・アウトプットはしっかり資料として出ているが、アウトカムの評価は行われていない。今後コンサルタントを使って調査されるということで、できればその中にアウトカムについて盛り込めたらと思う。

一つは今、委員長がおっしゃった人口、そして地価がどう変化したのかと、リニモの乗客。単にトータルで何人というよりは、もっときちんと需要の変化をできる範囲で調べてほしい。

もう一つ、他地域も調べられるということも聞いたが、地域ぐるみでひとつの鉄道ができたときから、交通計画をベースに、関係者が連携して地域の活性化をしている例は他にあまりないのではないかと思う。他地域と比較する中で、その素晴らしさを描き出せたらと期待している。

○瀬口委員長

今、指摘いただいた人口や地価だとかは統計があると思う。利用者数は5割近く増加している。経常収支がゼロになってきたところである。

さらに改善できるかをリニモとしては考えていき、沿線の市町村は、地域住民が将来的にも良い環境の中で生活できる地域づくりをしているところで、両方をあわせて評価していただくということだと思う。

今年の業務に入っているかどうかは分からないが、地価なんかは統計があり、人口も市町村の資料から取り、できるものを統計として出していくという方法もあると思う。

○土居委員

現在の豊田市の取組を少し紹介すると、名鉄豊田市駅の周辺が市の中心部となっており、今まで3回くらい再開発を行い、現在最後に残った区域をやっているが、再開発を進める中で、今一度しっかりと地域をあげて見直そうとしている。

この地域では、東郷町に「ららぽーと」という大きな商業施設が三年後位に出来る予定だと聞く。市内の商業施設の営業担当者に聞くと、関東地区で「ららぽーと」が出店すると、周りの大きな商業施設のほとんどで売り上げが減るということである。他地域で大きな影響がでているため、今、シンクタンクを使って出店による影響を調査している。

豊田市と東郷町はかなり離れているが、大きな影響を受けるのではないかというような危機感を持っている。リニモ沿線でも、やはりこれからイケアやイオンが出店するが、その影響については、しっかり研究された方がよいかと思う。

なお、人口減少が懸念される中、三重県の銀行によると、この愛知県で魅力がある地域は日進市と長久手市だそうだ。

○瀬口委員長

郊外の大型店の規制というのを大都市圏でやっているはずで、造れるということは合法なのだと思うが、法律に合っていれば何をやってもいいということではないので、その辺を見極める必要がある。よその町で、50万都市の豊田の中心街を破壊するような大型店が郊外にできるのは、都市計画としてどうなのだろうか。ほどほどの大きさの商業施設が適度に分散したほうが良く、一人勝ちという状況もどうなのかと思う。

○井沢委員

この検討・計画中の施策の中でも出てくるが、豊田市の八草駅の1km周辺に大学がある。参考資料に「八草駅周辺の開発は、まだ地権者との協議段階」と書いてあるが、これは事実だと思う。豊田市の方ともよく話をするが、これは解決が無理ではないかと聞いており、協議が進んでいない状況である。取組の検討を進めていく中で、難しい施策は後回しにして、いくつかの施策に絞って優先的に他のことを進めていく方が現実的だと思う。

○瀬口委員長

やや難しいものを中期にしているのかもしれない。中期計画の中でも、リニモテラスは、当時は区画整理の進行状況があやふやだった中で、現在具体化されつつある。八草の方は、なかなか進めるのが難しいと先ほど報告があり、新たな提案があるか分からない。その環境の変化に応じて、もう少し集客型の施設があってもいいということを考えられないか検討してみてほしい。そういう新たな提案と、それが短期になるのか、中期になるのかということ、検討してもらえればよいのではないかと。

○愛知県地域政策課

事務局からの補足説明だが、参考資料の左側については、28年以降の取組にあたって、実際に具体化した実施された事業、あるいは、継続して実施している事業で、実施済みで、終わってしまったものについては省いていくことになる。

実施中で今後継続してやっていくものについては、継続して取り組んでいくということになると思うが、問題は右側の検討・計画中のもので、構想を策定時から、これまでの間にまだ実ってない事業である。

その中でも、例えば19番のように中止になったという事業もある。それ以外に、ここはもう時代とかけ離れているのではないか、今後の28年以降の取組には、これはもう入れなくてもいいのではないかとか、あるいは、これはやっぱり継続して突き詰めていかなければならないから、入れておくべきではないか、または、全く新しい視点から、こういうようなものを入れたらどうかという意見もいただければ、非常にありがたいと思う。

○前田委員

ちょっと趣旨が違うかもしれないが、愛環鉄道では、まだICカードが使えなかったので、導入の計画があるのか、それともリモのIC化にあわせて数年後にそのような計画を作られるのか、実態を教えていただければと思う。

○愛知環状鉄道(株)

ICカードについては、平成24年度から28年度の中期経営計画の中での検討をしているところである。ただリモのように、具体的な時期については、今のところ計画はない。

理由として、リモは全て自動改札なのに対し、愛知環状鉄道は、国鉄の路線を引き継いだため路線が長く、主要駅には自動改札があるが、無人駅が多いということがある。そのためリモと同じペースでは進められない。

また今、朝晩のラッシュ時には毎時4本走らせているが、昼間帯は3本なのを、4本化して都市型鉄道という形にしようという当面の中期経営計画の目標がある。これについては、平成27年度末には進められるようにしており、そういったことでリモとの八草駅における乗り継ぎが改善していくということと言える。

ダイヤの充実と、旧国鉄から引き継いだ施設の修繕あるいは耐震工事といった経営課題があるため、当面はそういった経営課題に取り組み、ICカードについては重要な課題として、引き続き検討していきたいと思っている。

○瀬口委員長

今回はリモでICカードが導入されるということで、その点を構想に入れるべきだろう。先ほど議論のあった周辺施設でのICカード利用などは、生活の中でもっと進んでくると思う。そういうものを先進的にこの地域で導入することを、地域の生活とリモの関係で提案ができるといいかもしれない。

○清水委員

団地とかニュータウンの高齢化問題が、全国で起こっており、40年前に全国で行われたニュータウン開発と同じようなことを現在やっており、30、40年後、そのような問題がまた起こってくるというのは、過去から学んでいない気がする。そこで、ここに挙げられている35の世代混在住宅の誘導は重要な目標だと考えているが、これについては、具体的な構想、計画は進んでいるのか。

○長久手市

長久手市では今、2つの地区で土地区画整理事業をしているが、元々が農地で、所有している方々は、その近くに住む本家さんである。そのため、近郊での民間開発を見ていると、新しい人が住むことになるというイメージをしている。多世代の交流というのを街レベルではできるかと思うが、二世帯住宅のように、住宅レベルでの交流ができるかは分からない。

○瀬口委員長

民間開発のほうはやや若い人を中心にし、区画整理のほうは少し高級にして、中間の年齢の人が入って来るようにすると、少しは違う世代が混在するようになる。

高度経済成長時代は、人口増加への対応のためにどんどん建設し、同じ世代の人ばかりの団地が多いが、今はむしろ人口が減っており、選択的にその地域に住んでもらうということを意識して進めていくといいと思う。

○長久手市

公園西駅の方は、本市でも初めての飛び市街地になる。

公園西駅については、地区計画を策定していく中で、最低制限敷地面積という制限を設けていこうと考えており、およそ200平米くらい、坪でいうと60坪くらいの、少しゆとりのある住宅ができるとイメージしている。

○瀬口委員長

民間のところで大体どれくらいの年代の人が多いか入居者のモニターを少しやってみていくといいかもしれない。

○松宮委員

30番で、テーマ性のあるプロムナードの形成が上げられており、芸大通周辺を初めとして、という計画になっているが、実は愛・地球博記念公園周辺は、学生や利用者にとって上手くできていないところがある。いつも通学の時に学生が大勢で横断歩道渡って歩き、渋滞を起こしていると住民の人から苦情が殺到している。

例えば、信号を横断歩道の逆側に付けると、車の左折がスムーズに行くなど、それくらいの方法で改善できる余地があると思う。また、芸大通からトヨタ博物館の間にも、歩いていくには分かりづらく、不便で、危ないところもあつたりする。公園西は非常に暗く、不便なところもあるので、今後利用客が増えていくのに併せて、通学路の整備というのも考えてほしいと思う。

また、藤が丘駅とかは花壇を地元の方が整備していたり、はなみずき通駅の前の花壇も、地元のボランティアの方が有志で整備していたりする。

公園西駅周辺の道なども、学生や地元の高齢者、地元の方がまた整備するような形でやれば、地元の方が参加しながらこのプロムナードの形成ができると思うので、そういう点を、計画の中に組み入れていただければ思う。

○瀬口委員長

20番の駅周辺の芸術活動はソフトなので、リニモテラスなど、駅のところで何かリンクできるといい。

また、陶磁資料館南駅だけ乗降客数が極端に低いので、駅から陶磁美術館にかけてのプロムナードをどうするかを検討していただいて、陶磁美術館の中の企画も含め、お客さんが来るような、資料館でなくて美術館としての活動を増やしていただけると文化性が一層高まるのかと思う。そういったことを少しプロムナードの方で意識していただいて、ということである。

集客に関して、愛・地球博記念公園の児童公園のほうで何か計画を検討していたが、もう動きがないのか。

○愛知県地域政策課

子どもの広場というものを、かつて検討していたが、今は緑化フェアの関係でいろいろ施設整備を進めており、それが終わったら本格的に子どもの広場の方を考えていこうということになっている。中期計画には出せそうである。

○瀬口委員長

そのくらいの時期には出していただいて、新たに考えていくこともあるが、すでに構想されたものをどこまで活かせるかというのも今度の見直し中でやっていただきたい。

○井沢委員

その周辺でビアガーデンはできないのか。8月に集客力が落ちるということで、この周辺はビアガーデンがあまりなく、やれば儲かると個人的には思う。

○瀬口委員長

それは、リニモでは難しいのか。

○愛知県地域政策課

一昨年度にNPOの方をお願いして世界のお酒を味わおうというイベントをやったのだが、愛知県は交通事故が多く、表だってはやりづらい。

また、児童総合センターがあり、すぐ近くでビアガーデンをやるのは、子ども連れにとってはどうかとも思う。

○西尾委員

検討・計画中の施策の番号5番や35番、つまり地権者との協議の関係についてだが、土地は地権者から買い上げるのか、それとも合意による貸し出しという形になるのか教えていただきたい。

また、イオンやイケアが計画している土地は、業者が買うのか、貸し出しになるのか教えてほしい。

○長久手市

土地区画整理事業では、元々地権者が持っていた土地を減歩し、整形にして換地するという形である。

また、イオンは、地権者から借地をして出店する。一方、イケアは土地を取得して出店する。

○瀬口委員長

その場合、土地を持っているからといって勝手に作っては、都市計画がなっていない。今日本の制度では都市計画マスタープランというのを策定し、一応土地利用の大きな策定の方針が決まっている。大きな合意を得た方針があればそれを都市計画マスタープランに反映して区画整理などの行為が行われる。東郷町の場合もその手続きを踏んでいるはずである。

街をどういうふうにするのか皆さんのご意見を聞き、地権者のところに行き、そこでもう一度合意を得て少しずつ進んでいくため、日本は時間がかかる。

○島田委員

この構想、あるいはこの会議と、交通事業者との関わりだが、これまでは交通事業者の運営に関わることは議題にしないということでやってきた。今後この構想や会議を考えていく上で、何らかの形で交通事業者の運営も含めて考えていく場になってもいいと考えている。

理由は、リニモは株式会社であるが、今後さらに行政の出資が増えて実質公営化してくるためである。実質公営の株式会社には住民の意見あるいは関係者の意見が反映する場が制度的にない。そのため、関係者の意見が交通事業者の運営に反映される場があってもいいと思う。

例えば、先ほどからもICカードが話題に上がっており、平成28年に供用されるということだが、現在どのカードにするのかという検討されているところだと思う。導入されるカードによって提供できるサービスが違ってくる。ICカードが入ったらこういうサービスが提供できるのではと強く期待されているところだと思う。ところが、それについても会社が計画されているのだが、それについて全く議論する場がない。

やはりそういう会社の重要な運営問題についてどこかで利用者・関係者が議論する場があるといいのではないかと思う。

○瀬口委員長

これは多分慎重に検討しているのだと思う。議論を踏まえて、リニモだけのことでなく、広く考えてやるのは原則だということを思っていたら、会議等にシステム的に入れたらどうかということもご検討いただきたい。

八草駅周辺はやはり寂しい。瀬戸市と豊田市にはアイデアを出していただきたいと思うが、良いアイデアはないか。

ところで、八草地域の産業集積用地については、せっかくこれまで検討していただいたのだが、販売価格はいくらになりそうだったのか。

○豊田市

具体的な数字は申し上げられない。

○瀬口委員長

面積を小さくするなどすれば、少しは変わるかと考えたりもするが、郊外の難しいところである。

私は瀬戸市や豊田市が地域と話し合いながら道の駅を造ると良いと思う。行政から補助金が支出され、地元の農協等が生産者として売れば、道の駅ではいろんなことができるので、大学にとってもメリットがあるような気がする。

瀬戸市の上之山団地は住宅地しか作れないのだろうか。

○瀬戸市

上之山団地については都市計画法に基づく地区計画が定められ、基本的には従来からの計画を継承し、宅地開発が進められている。ただし、一部の区域については、一般の戸建て専用住宅は控える計画になっており、その区域の活用方法については検討状況にある。

○瀬口委員長

需要があるかは分からないが、八草は乗り換え拠点なので、住宅に限らず幅広く、今後の方針を検討していただき、その新しい計画に入れるものがあるのなら、入れる方向で考えていただきたい。

ICカードのことについては、皆さん関心があるのだと思う。住宅開発が進んでいくという中で環境と、世代混住型ということコンセプト的に進めていくことができるかと思う。また、施設計画についても、もうちょっと練り上げて、載せられるものについては、ぜひ次の計画には載られると良いと思う。情報関係では、民間事業者の開発についてできるだけ情報を流してもらえないかという話があるので、これは検討していただくということをお願いしたいと思う。

3 その他

次回のリニモ沿線地域づくり会議は、来年3月頃に開催する予定。その際にリニモ沿線地域づくり支援事業について発表する。

(閉会)